

羽生市犯罪被害者等支援条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、羽生市犯罪被害者等支援条例（令和6年条例第7号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

(1) 犯罪被害 犯罪行為による死亡又は傷害（医師の診断により負傷又は疾病の療養に1か月以上を要し、かつ、病院又は診療所への入院を3日以上要したものをいう。ただし、当該疾病が精神疾患である場合にあっては、3日以上労務に服することができないものその他市長が認めるものに限る。以下同じ。）で、被害届が警察に受理されているもの又は警察に提出することが困難であると市長が認めたものをいう。

(2) 犯罪被害者 犯罪被害を受けた者であって、当該犯罪被害の原因となった犯罪行為が行われた時点において市内に住所を有していたものをいう。

(遺族見舞金の支給対象者)

第3条 遺族見舞金の支給を受けることができる者は、犯罪被害者の死亡の当時において、当該犯罪被害者の遺族であって第3項の規定により第1順位となる遺族（以下「第1順位遺族」という。）とする。

2 前項の遺族の範囲は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 犯罪被害者の配偶者（婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻の関係と同様の事情にあった者又は犯罪被害者とパートナーシップの宣誓（羽生市パートナーシップ及びファミリーシップ宣誓に関する要綱（令和6年告示甲第10号）に規定する宣誓をいう。以下同じ。）を行った者を含む。以下同じ。）

(2) 犯罪被害者の収入によって生計を維持していた犯罪被害者の子(縁組の届出をしていないが、事実上養子縁組の関係と同様の事情にあった者又はファミリーシップの宣誓の関係にあった者を含む。)、父母、孫、祖父母及び兄弟姉妹

(3) 前号に該当しない犯罪被害者の子、父母、孫、祖父母及び兄弟姉妹

3 遺族見舞金の支給を受けるべき遺族の順位は、前項各号に掲げる順序とし、同項第2号及び第3号に掲げる者にあつては、それぞれ当該各号に掲げる順序とし、父母については、養父母を先にし、実父母を後にする。

4 第1順位遺族が二人以上あるときは、そのうちの一人を遺族見舞金の申請、請求及び受領についての代表者に選任しなければならない。この場合において、当該代表者に対して行った支給は、当該第1順位遺族全員に対してなされたものとみなす。

(傷害見舞金の支給対象者)

第4条 傷害見舞金の支給を受けることができる者は、犯罪被害者のうち犯罪行為により傷害を受けた者とする。

(犯罪被害者等見舞金の支給の制限)

第5条 市長は、次に掲げる場合には、遺族見舞金及び傷害見舞金(以下「犯罪被害者等見舞金」という。)を支給しないものとする。

(1) 犯罪行為が行われた時点において、犯罪被害者又は第1順位遺族(第1順位遺族が二人以上あるときは、そのいずれかの者。以下この条において同じ。)と加害者との間に次のいずれかに該当する親族の関係があつたとき。

ア 夫婦(婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻の関係と同様の事情にあつた場合又はパートナーシップの宣誓を行った場合を含む。)

イ 直系血族（親子については、縁組の届出をしていないが、事実上養子縁組の関係と同様の事情にあった場合又はファミリーシップの宣誓の関係にあった場合を含む。）

ウ 3親等内の親族（ア又はイに掲げる者を除く。）

(2) 犯罪被害について、犯罪被害者又は第1順位遺族に次のいずれかに該当する行為があったとき。

ア 当該犯罪行為を教唆し、又はほう助する行為

イ 過度の暴行又は脅迫、重大な侮辱等当該犯罪行為を誘発する行為

ウ 当該犯罪行為に関連する著しく不正な行為

(3) 犯罪被害者又は第1順位遺族に次のいずれかに該当する事由があったとき。

ア 当該犯罪行為を容認していたこと。

イ 集団的又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織に属していたこと。

ウ 当該犯罪行為に対する報復として、加害者又はその親族その他の加害者と密接な関係にある者の生命を害し、又は身体に重大な害を加えたこと。

2 前項の規定にかかわらず、犯罪被害者又は第1順位遺族と加害者との関係その他の事情から判断して、犯罪被害者等見舞金を支給することが社会通念上適切であると市長が認めるときは、犯罪被害者等見舞金を支給するものとする。

（遺族見舞金の額の調整）

第6条 傷害見舞金の支給を受けた者が当該傷害見舞金の支給に係る犯罪行為による被害に起因して死亡した場合は、当該傷害見舞金の支給により遺族見舞金の一部が支給されたものとみなす。この場合において、当該死亡した者の遺族に支給される遺族見舞金の額は、遺族見舞金の額から、当該傷害見舞金の額を控除した額とする。

(遺族見舞金の支給申請)

第7条 遺族見舞金の支給を受けようとする第1順位遺族(第1順位遺族が二人以上あるときは、第3条第4項の規定により選任された代表者。以下この条において「遺族見舞金申請者」という。)は、羽生市遺族見舞金支給申請書(様式第1号)に次に掲げる書類を添えて、市長に提出しなければならない。

- (1) 犯罪被害者の死亡診断書、死体検案書その他の当該犯罪被害者の死亡の事実及び死亡の年月日を証明することができる書類
- (2) 犯罪被害者が犯罪被害を受けた当時市内に住所を有していたことを証する住民票の写しその他の証明書
- (3) 遺族見舞金申請者と犯罪被害者との続柄を明らかにすることができる戸籍謄本、戸籍抄本その他の証明書
- (4) 遺族見舞金申請者が犯罪被害者と婚姻の届出をしていないが、犯罪被害者の死亡の当時事実上婚姻の関係と同様の事情にあった者又は犯罪被害者とパートナーシップの宣誓を行った者であるときは、その事実を認めることができる書類
- (5) 遺族見舞金申請者が配偶者以外の者であるときは、第1順位遺族であることを証明することができる書類
- (6) 遺族見舞金申請者が第3条第2項第2号に該当する者であるときは、犯罪行為が行われた当時犯罪被害者の収入によって生計を維持していた事実を認めることができる書類
- (7) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める書類

(傷害見舞金の支給申請)

第8条 傷害見舞金の支給を受けようとする犯罪被害者(以下この条において「傷害見舞金申請者」という。)は、羽生市傷害見舞金支給申請書(様式第2号)に次に掲げる書類を添えて、市長に提出しなければならない。

- (1) 傷害を負った日、治療に要する期間及び傷害の状態がに関する医師の診断書
- (2) 傷害見舞金申請者が犯罪被害を受けた当時市内に住所を有していたことを証する住民票の写しその他の証明書
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要と認める書類
(犯罪被害者等見舞金の支給申請の期限)

第9条 犯罪被害者等見舞金の支給申請は、当該犯罪行為による死亡若しくは傷害の発生を知った日から2年を経過したとき、又は当該犯罪行為による死亡若しくは傷害が発生した日から7年を経過したときは、これを行うことができない。

(犯罪被害者等見舞金の支給決定等)

第10条 市長は、第7条又は第8条の規定により申請書を受理したときは、その内容を審査し、速やかに犯罪被害者等見舞金の支給の可否を決定するものとする。

2 市長は、前項の規定による決定を行ったときは、羽生市犯罪被害者等見舞金(遺族見舞金・傷害見舞金)支給決定通知書(様式第3号)又は羽生市犯罪被害者等見舞金(遺族見舞金・傷害見舞金)不支給決定通知書(様式第4号)により通知するものとする。

(犯罪被害者等見舞金の請求)

第11条 前条第2項の規定により犯罪被害者等見舞金の支給の決定を受けた者(以下「受給者」という。)は、その支払を請求しようとするときは、羽生市犯罪被害者等見舞金(遺族見舞金・傷害見舞金)請求書(様式第5号)を市長に提出しなければならない。

(犯罪被害者等見舞金の支給決定の取消し等)

第12条 市長は、受給者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、犯罪被害者等見舞金の支給の決定を取り消し、又は既に支給した犯罪被害者等見舞金の返還を求めるものとする。

(1) 第5条に規定する犯罪被害者等見舞金の支給の制限に該当することが判明したとき。

(2) 偽りその他不正の手段により犯罪被害者等見舞金の支給の決定又は犯罪被害者等見舞金の支給を受けたとき。

(3) 前2号に掲げるもののほか、犯罪被害者等見舞金の支給の決定を取り消し、又は既に支給した犯罪被害者等見舞金の返還を求めることが適当であると市長が認めるとき。

2 市長は、前項の規定により犯罪被害者等見舞金の支給の決定を取り消したときは、羽生市犯罪被害者等見舞金支給決定取消通知書(様式第6号)により通知するものとする。

(報告等)

第13条 市長は、犯罪被害者等見舞金の支給に関し必要があると認めるときは、受給者に対し報告を求め、又は調査を行うことができる。

2 市長は、犯罪被害者等見舞金の支給に関し必要があると認めるときは、関係機関等、病院その他の関係者に照会して必要な事項の報告を求めることができる。

(その他)

第14条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、令和6年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の規定は、この規則の施行の日以後に行われた犯罪行為により死亡した犯罪被害者の遺族又は傷害を受けた犯罪被害者について適用する。